

再編
・
十一夜

作・小佐部明広

【登場人物】

ヴァイオラ

オーシーノ公爵……イリリアの公爵。
キューリオ……公爵に仕える紳士。

オリヴィア……伯爵家の娘。

マルヴァーリオ……オリヴィアの執事。

マライア……オリヴィアの侍女。

トービー……オリヴィアの叔父。

アンドルー……トービーの友人。

道化……オリヴィアの道化。

セバスチャン……ヴァイオラの双子の兄。

アントニオ……セバスチャンの友人。

【演出メモ】

フラットなスペース。左右に11脚のイス。出番のない役者はイスに座つて黒い布を被つて待機。イスは舞台の道具として度々使う。召使い、役人、神父の役は、登場していない役者が布をかぶりながら演じる

第一幕

ツプなやつを歌いたいんだ。聴いてください、『つけまつける』。

楽しくて派手なクラシック音楽。
幕が開く。

華やかな照明。
役者たちは踊っている。

第一場 公爵の宮殿

オーバーノ公爵が音楽を止める。

公爵　ええいやめろやめろ、音楽をとめろ！　お前たちも出て
け！　早く出ていけ！

キューリオを残して、他の登場人物は去る。

キューリオ　公爵、どうなさつたのですかそんなにお怒りにな
つて。公爵がお招きになつたんですよ。

公爵　気分が変わつたんだよ気分が。いいか、俺は今すごくナ
ーバスなんだ。この気持ちを紛らわしたいんだよ俺は。お前

クラシックなんかで俺の気が紛れると思うか。

キューリオ　ではなんだつたら気が紛れるというんですか。

公爵　なんでちょっと怒つてんだよ。怒りたいのは俺の方だ
よ、クラシックなんか聴かせやがつて。俺はもつとポップな
やつをききたいんだよ。ききたいというか歌いたい。俺はポ

公爵　おかげなくていいです。おかげなくていい
いですかから。

キューリオ　なぜ邪魔をするんだ貴様。俺はぱちぱちつけまつけて気
分も上を向かせたいんだよ！

キューリオ　どうしたのですか公爵。最近の公爵はなにかおか
しいですよ。

公爵　おかしい？　わかつてゐよ、自分でもおかしいことくら
いわかつてゐ。でもどうしようもないだろ。お前なんかにに
俺の気持ちはわからん。

キューリオ　いえ、そんなことはありません。わたくしは誰よ
りも公爵のお気持ちがわかつてゐるつもりです。

公爵　お前好きな人に告白したことあるか。

キューリオ　……ええ、それはありますが。

公爵　どうだつた？

キューリオ　どうとは？

公爵　成功したのか失敗したのかつてことだよ。

キューリオ　一応、成功はしましたが。

公爵　しました「が」？　そのあとひどい別れ方をした？

キューリオ　いえ、そのまま結婚しまして、今の妻です。

公爵　それで？　結婚はしたものの、今ではすっかり関係は冷
え切つて、相手の顔も見たくない？

キューリオ　いえ、月に一度は旅行に行きますし、とても幸せ
です。

公爵　てめえ殺すぞ！

キューリオ なぜですか！

公爵 好きな人に告白して付き合つて結婚して月一で旅行してとても幸せですかそうですか！だからお前に俺の気持ちはわからないと言つたんだ！

キューリオ …。

公爵 よくも俺の目の前でそんなことが言えたな。いいか、俺は好きな人に告白してフラれてるんだぞ。しかも1回や2回じゃない。17回だぞ。お前17回も告白したことがあるか。

17回告白して、17回フラれたことがあるか。空気を読めよ！ 17回フラれた俺の前で幸せな話してんじやねえよ！ 不幸なエピソードのひとつでも用意しておけよ！

キューリオ 申し訳ありません…。

公爵 もういい。お前と話すの飽きた。俺はシザーリオと話す。シザーリオ！ シザーリオはいるか、シザーリオ！

ヴァイオラ（男装している）が現れる。

ヴァイオラ はい、シザーリオはここに。

公爵 シザーリオ、お前、俺に仕えてどのくらいになる？

ヴァイオラ ちょうど3週間です。

公爵 3週間、まだたつた3週間か。お前とはもう5年くらいは一緒にいる気がする。それだけ、お前は俺が心を開くことができる男だということだ。

ヴァイオラ ありがとうございます。

公爵 そこで、お前を誠実な男と見込んで頼みがある。オリヴィア姫のことは知っているな？

ヴァイオラ ええ、公爵が想いを寄せている方ですね。

公爵 そうだ。そのオリヴィア姫に俺の熱い想いを伝えてきてほしい。今までこいつ（キューリオ）に頼んでいたが、こいつは使い物にならん。

キューリオ 申し訳ございません。

公爵 これが台本だ。

公爵、分厚い紙の束を床に投げ置く。

公爵 むこうにつくまでに全て覚える。一言一句間違わずにオリヴィア姫に伝えるんだ。

ヴァイオラ わかりました。

キューリオ いや、公爵、この量は無理だと思いますが。

公爵 黙れ役立たず！ シザーリオはわかりましたと言つてるじゃないか！

キューリオ 申し訳ありません…。

ヴァイオラ しかし公爵、オリヴィア姫は兄君が病死してしまって、今は誰とも会う気分にはなれないときいていますが。

公爵 そこをなんとかするのがお前の役割だ。なんとしてもオリヴィア姫に俺の想いを伝えるんだ。なんならこいつ（キューリオ）も連れていくつて構わん。ええと…、お前名前なんだつけ？

キューリオ キューリオです。

公爵 そうそう、キューリオも連れていくつて構わん。もし成功して俺とオリヴィア姫が結婚できることになれば、なんでもお前の願いを叶えてやる。頼んだぞシザーリオ。

ヴァイオラ 必ずや成功させてみせます。

公爵は去る。

キューリオ シザーリオ、公爵はすっかりキミのことがお気に入りみたいだ。まだたつた3週間だつてのに。俺はもう8年も公爵にお仕えしてるつてのにこんな扱いだよ。本当羨ましいよ。

ヴァイオラ いえいえ、そうは言つても公爵はキューリオさんを一番信頼してますよ。僕もキューリオさんが色々と教えてくださったおかげで、すぐにこの環境にも慣れましたし。

キューリオ そう言つてもらえて嬉しいよ。

ヴァイオラ それで……、キューリオさんを信頼して、知つてもらいたいことがあるんです。

キューリオ ああ、なんだい？

ヴァイオラ 僕、女なんです。

キューリオ ……いやいやいや、なんだよ、何を言い出すかと思えば。

ヴァイオラ、ヒゲをとつて、髪を下ろす。

ヴァイオラ キューリオ ……本当に？

ヴァイオラ はい。本当の名前はヴァイオラといいます。

キューリオ マズいよ。公爵にバレたらタダジやすまないよ。

ヴァイオラ そうなんです。だから公爵には黙つていてほしい

キューリオ いや、つていうかなんで？ なんで男のフリなんてしてるの？

ヴァイオラ それは、色々事情があるんですけど……、でも、私、公爵のことが好きなんです。

キューリオ ……はあ？

ヴァイオラ それで、公爵のそばでお仕えしたいと思つていて。

キューリオ キミ大胆だねえ。

ヴァイオラ だから、私、オリヴィア姫が羨ましいんです。告白されるのが私だつたらどんなに嬉しいことか。

キューリオ ああ、うん、そうだね。

ヴァイオラ ……お願いします。公爵には黙つていてください。

キューリオ うん、それはわかつたけど……。あのさ、ひとつきいていい。

ヴァイオラ はい。

キューリオ なんで俺にうちあててくれたの？

ヴァイオラ それは、キューリオさんは信頼できると思つたので。

キューリオ そつか……。

ヴァイオラ 私もひとつきいていいですか。

キューリオ うん。

ヴァイオラ お名前、キューリオさんであつてますよね？

キューリオ ……うん、そう、キューリオ。え、もう3週間一緒だよね？

ヴァイオラ すみません、私名前を覚えるのが苦手で。

キューリオ ああ、そうなんだ。

ヴァイオラ それじゃあ行きましょう。トウーリオさん！

キューリオ ……キューリオね！

ヴァイオラ 行きましょう、キューリオさん！

ヴァイオラとキューリオ、去る。

第二場 オリヴィアの邸

オリヴィアとマルヴォーリオが現れる。

オリヴィア (泣いている) あーはーはーはーん、お兄様あ、お兄様あ、

マルヴォーリオ お嬢様、そろそろお泣きになるのはやめまし

よう。せつかくの美しいお顔が台無しです。

オリヴィア だって、だって、お兄様が死んでしまったのよ。

マルヴォーリオ ほうらお嬢様、いないいなばあ、いないい

なばあ、

オリヴィア (泣いている) はーんはーんはーんはーん、

マルヴォーリオ ああまつたくどうしたもんか。

道化 どうしましたオリヴィアさん。

道化 どうしましたオリヴィアさん。

オリヴィア 誰？

道化 お久しぶりです。道化ですよ。オリヴィアさんの道化。

オリヴィア 道化ー！ (嬉しそうに道化に近づいて) ハイハ

イハイハイハイハーッ！

オリヴィア、道化をボクシングで叩きのめす。

オリヴィア 今まで何してたのよ！

道化 (口に溜まった血を軽く吐き出して) まつたくなんですか、

僕はサンドバツクジやありませんぜ。

オリヴィア なにしてたつてきいてるのよ！ 私を慰めるの

があなたの役目でしようよ！ どうして私が必要とするとき
に限つていないのよ！

道化 まあまあオリヴィアさん、そんなに怒ると体に悪いです
よ。いつたん落ち着きましょう。カルシウムを取りましょ
う。

オリヴィア とつてるわよ！ 毎日牛乳飲んでるわよ！ もう
いいわ、マルヴォーリオ、このバカをどこかへ連れていつ
て。

マルヴォーリオ ははっ。(道化を連れていくとする)

道化 おいマルヴォーリオさん、きこえなかつたのか。早くオ

リヴィアさんを連れていけ。

マルヴォーリオ なに？

オリヴィア 道化、私はバカを連れていけと言ったのよ。

道化 だから僕はオリヴィアさんを連れていけと言つたんで
す。

マルヴォーリオ 貴様、お嬢様がバカだというのか。

道化 バカをバカと言つてなにがいけないんです？

マルヴォーリオ 貴様、それ以上いうとタダジやすまんぞ。

道化 いやいや、僕は本当のことと言つたまでですよ。なんなら

ら証明しましようか、オリヴィアさんがバカだつてこと。

オリヴィア 私の何がバカだつていうのかしら。

道化 なあオリヴィアさん、なんで泣いていたの？

オリヴィア 悲しいから泣いていたのよ。

道化 なにがそんなに悲しいんだい？

オリヴィア お兄様が亡くなつてしまつたからよ。

道化 なるほど、兄上は地獄に落ちたつてことだ。

オリヴィア 天国よ。お兄様が地獄に落ちるわけないわ。

道化 だからお前はバカなんだよ。お兄様が天国へいったとい

うならどうして悲しむ必要があるんだ、あん？ おいマルヴ

オリオ、このバカを連れていけ。

オリヴィア (少し機嫌を直して) どうかしらマルヴォーリオ。

マルヴォーリオ 私としてはただ呆れるばかりです。このよう

なバカをお側に置いておくなんて、私はお嬢様の考えがわからかねます。

オリヴィア あなたも冗談がわからない人ねマルヴォーリオ。

こいつは頭がいいバカなのよ、ただのバカじやなくてね。

(道化に) いいわ、あなたのことは許してあげる。もう少し

この家にいてもいいわ。

道化 オリヴィアさんがどうしてもつていうんなら仕方ありますよ。

せんね。もう少しこの家にいることにしますよ。

マライアが現れる。

マライア オリヴィア様、若い方がお見えになつて、オリヴィ

ア様にお会いしたいと言つているんですが。

オリヴィア また公爵の使いかしら。

マライアええ、おそらく。かつこいい感じの青年と、あと、

いつもの微妙な使いが一人。

マルヴォーリオ 今お嬢様は、誰かにお会いするような気分ではない。帰らせろ。

マライア それが、何を言つても帰らないの一点張りで。

ヴァイオラとキューリオが乱入してくる。

ヴァイオラ (ドアを蹴破る) バン！ 失礼しますよ！

マルヴォーリオ 何者だ！

ヴァイオラ オーシーノ公爵の使いのものです。埒があかない

ので強行突破させていただきました。

キューリオ すみません、本当すみません。

マルヴォーリオ おい、誰か！ 誰かいなか！ こいつらを

追い出せ！

オリヴィア 待つてマルヴォーリオ。(ヴァイオラに) あなた面

白い人ね。お名前は？

ヴァイオラ シザーリオと申します。

オリヴィア シザーリオね。いいわ。(マルヴォーリオとマライア

に) さがつていいわ。

マルヴォーリオ はい？ いえしかし、

オリヴィア さがりなさい。少しこの人とお話をしたいわ。

マルヴォーリオ ……わかりました。（マライアと道化に行くぞ。）

マライア ええ。

マルヴォーリオとマライア、道化は去る。

ヴァイオラ あなたがオリヴィア姫ですか。

オリヴィア そうよ。

キューリオ 度々失礼させていただいてます、私はキューリオです。

オリヴィア ええ、あなたは帰つていいわ。

キューリオ はい？ いえしかし、こいつはまだまだ若いし、

何か失礼があつてもいけませんから。ヴァイオラ 大丈夫。僕はもう一人前の大人ですよ。帰つてください、チヤーチルさん。

キューリオ キューリオね。

オリヴィア 二人つきりでなきや、私なにも話さないわよ。

キューリオ わかりました。（ヴァイオラに）いいか、もしなにかあつたら、
ヴァイオラ 早く帰つてください。

キューリオ おう。

キューリオは去る。

ヴァイオラ それでは、オーシーノ公爵のお言葉をお伝えいた

します。

オリヴィア いいわよいいわよ聞き飽きたわ。私はあなたとお話をしたいの。公爵の言葉はききたくないわ。

ヴァイオラ ひどいなあ、覚えるのにすごく時間がかかったんですよ。こんな辞書みたいな台本。お供のチャーチルに手伝つてもらって、必死で覚えたんですよ。

オリヴィア あら、辞書みたいな台本を全部覚えられるなんてすごいじやない。あなた役者の才能があるわよ。

ヴァイオラ いえ、世の中には男役を演じる女もいるくらいです。それに比べれば大したことはありませんよ。

オリヴィア それは台本通りの言葉？

ヴァイオラ いいえ、そうでした、私の目的は公爵の台本を一言一句間違わずに言うことです。

オリヴィア 公爵の言葉は聞きたくないわ。

ヴァイオラ きいてくださいよ、せつかく覚えたんですから！ ひどすぎますよ。せつかく台本の台詞全部覚えたのに、脚本家が「やつぱりうまくいかないので台本一から書き直します」つていうくらいひどいですよ。

オリヴィア それは確かにひどいけれど。

ヴァイオラ ですからとにかくいてください。いいですか、いきますよ。（息を深く吸つて）それではきいてください。「大好きだぜオリヴィア。作、オーシーノ公爵。オリヴィアや、ああオリヴィアや、オリヴィアや。俺はもう、オリヴィア姫が大好きさ。とつてもとつても大好きさ。イリリアーいや世界一、いや宇宙で一番大好きさ。いっぱい大好きさ。全人類、みんながお前の敵だとしても、俺はお前の味方

だぜ。カツコ笑い。オリヴィアや、ああオリヴィアや、オリヴィアや……」

オリヴィア もうやめて！

ヴァイオラ 待つてくださいよ。まだ200ページのうち1ページ目ですよ。

オリヴィア センスがなさすぎるのよ！

ヴァイオラ それは僕じやなくて公爵におつしやつてください！

オリヴィア なんのよ、なんで微妙に七五調なのよ！ ねえ、その台本覚えていて疑問に思わなかつたの？ こんな

じや私のこと落とせつこないつて思わなかつたの？

ヴァイオラ そりやあ思いましたよ！ 思つたに決まつていてじやありませんか！ でも仕方ないじやないですか。命令なんですから。公爵の命令なんですから！

オリヴィア そりやあ、私だつて公爵に慕われてるつて知つて、そりやあ悪い気はしなかつたわよ。つていうかちよつと嬉しかつたわよ。でも、こんな下手くそな台詞きいてオッケー出せないわよ。わかるでしょ。あなただつて例え女だとして、例え公爵のことが好きだつたとしても、こんなのかされたら、やつぱりやめとこうかなつて思うでしょ？

ヴァイオラ 僕は、僕はそれでもオッケーかなつて思うかもしれない！

オリヴィア オッケーじやないわよ。あのね、私貴族の娘なによ。伯爵家の娘なによ。プライドつてものがあるじやない。落とされるときはオシャレで気の利いた言葉で落とされたいじやない！

ヴァイオラ でも、それは言つても公爵ですよ。身分も高いし、とてもご立派な方ですよ。なのにそういうことをおつしるのは、ちょっと贅沢なんじやないかなあ。

オリヴィア それに、あのあいつよ！ チャーチルだかトーマスだかいう微妙な使い！ あいつ今、台詞、微妙に節とか、ダンスとかつけてくるのよ、もうミュージカルよ！ 劇団四季よ！ そんなの17回も続いてみなさいよ。もうPTSDになるわよ！

ヴァイオラ それは申し訳ありません。うちのトーマスが失礼をいたしました。

オリヴィア ほんとよ、ほんと。（少し笑つて）ほんとひどいのよ、あのトーマスつていう使い。すごいソウルフルなダンスで、

ヴァイオラ （オリヴィアと一緒に少し笑う）

オリヴィア まだあなたの朗読の方がマシだつた。

ヴァイオラ それは、トーマスがひどすぎるとですよ。

オリヴィア でももう帰つて、私疲れたわ。

ヴァイオラ それは困りますよ。あなたの「うんいいよー。」

ヴァイオラ という返事がもらえるまで僕は帰れないんですから。

オリヴィア 公爵にこう伝えて。あなたを愛することはできません。もう二度と使いをよこさないでくださいって。まあ、もしあなたが個人的に私に会いたいっていうなら、そのときは会つてあげてもいいわ。もう今日はあなたと話すことはなにもないわ。さようなら。

ヴァイオラ また来ますよ。

ヴァイオラは去る。

少しして、オリヴィアはそわそわして歩き回ってなんだか落ち着かない様子。

オリヴィア マルヴォーリオ！ マライア！

マルヴォーリオ、マライアが現れる。

その間に、オリヴィアは自分の身につけていた指輪を外す。

マルヴォーリオ お呼びでしようか。

オリヴィア マルヴォーリオ、さつきのシザーリオという男、今すぐ追いかけてちようだい。この指輪を無理やり置いていったの。

マルヴォーリオ （指輪を見て）いつもお嬢様が身につけている指輪にそつくりですな。

オリヴィア きっとあのストーカーまがいの公爵がわざと同じものを用意したんだわ、気持ち悪い。とにかくこんな気持ち悪いもの受け取れないわ。私はあの人妻にはなりません。その理由を知りたいなら、さつきのシザーリオという男を使いによこせと伝えてちようだい。いそいでね、マルヴォーリオ。

マルヴォーリオ はい。

マルヴォーリオは去る。

オリヴィア マライア！ （マライアにすがりつく）

マライア どうしたんですかオリヴィア様。

オリヴィア どうしましよう、私、自分でも何をしているのかわからないの。ただ、もう一度、あのシザーリオという方に会いたい、そういう気がするの。これつてどうして？

マライア かつこいいからじやないでしようか。

オリヴィア そうよね、かつこよかつたわよね？ あの微妙な使いより断然かつこよかつたわよね？

マライア そりやそうですよ。

オリヴィア そつかあ、私面食いだからなあ。かつこいい男に弱いんだよなあ。

マライア お嬢様、いつたん落ち着きましょう。一晩寝れば落ち着きますから。さあ、ご自分の部屋まで戻りましょう。

音楽。

オリヴィアとマライアは去る。

ヴァイオラとキューリオが現れ、その後ろからマルヴォーリオが迫つてくる。

マルヴォーリオは指輪を投げつけ、何か言い残して去る。ヴァイオラは指輪を拾い上げる。

ヴァイオラとキューリオは去る。

第一場 海岸

夕方。海岸の波の音。

セバスチャンとアントニオが現れる。

セバスチャンは男装しているヴァイオラにそつくりである。

セバスチャン アントニオさん、もう行つちやうの？
アントニオ ああ、いつまでもこのイリリアにいるわけにはいかないんだ。

セバスチャン でも、じやあ俺もついていっていいかな？

アントニオ いや、ダメだ。

セバスチャン どうして？ 俺アントニオさんにはすごい感謝してるんだ。アントニオさんがいなかつたら俺も死んで

たと思うんだ。あの荒波の中、俺のことかかえてさ、岸までたどり着いたんだもん。俺の双子の妹はきっと溺れ死んじやつたけど、俺はアントニオさんのおかげで助かつたんだよ。俺友情感じてんだよアントニオさん。

アントニオ 他人を巻き込むわけにはいかないんだ。

セバスチャン 巻き込む？ 巻き込むってどういうこと？

アントニオ このイリリアには俺の敵がたくさんいるんだ。

俺、海賊をやつててね、ここの大尉の公爵の艦隊と一戦交えたことがあって、そこで多少派手にやつてしまつてね。

なるべく早く気づかれて、このイリリアから抜け出す方法を探さなきやいけないんだ。

セバスチャン そういうことなら俺も協力するよ。俺、ここには何回か来たことあるから、なにか力になれると思うんだ。

俺、セバスチャンっていうんだ。お父さんは、もう死んじやつたんだけど、たぶんむこうじやそれなりに有名だからきっとことあるんじやないかな。メツサリーンのセバスチャンっていうんだけど。

アントニオ メツサリーン？ あのセバスチャン様のご子息でいらっしゃいましたか！ そうとは知らずに、大変失礼いたしました。

セバスチャン いやいいんだよそんなにかしこまらなくて、友達だろ？ 頭上げてくれよ。なあ、お願ひだよ、一緒につれてつてくれよ。

アントニオ セバスチャン様のご子息のお願いとあれば、断るわけにはいきません。

セバスチャン 本当？ ありがとう。それじやあ行こうよ。あんまり人目につかなさそうな道とか案内するから。

アントニオ ええ、お供いたします。

セバスチャン よし、行こう。

セバスチャンとアントニオは去る。

第二場 オリヴィアの邸

音楽に乗りながらトービー、アンドルー、道化が現れる。
ノリノリな音楽。

全員酔っている。ひとしきり音楽に合わせて踊つたり歌つたりする。
マライアが現れる。

マライア (酒を持ってきながら) トービーさん、このくらいに
しこませんか？ またマルヴォーリオさんに怒られます
よ。

トービー 知つたことかあんなジジイ。好きなだけ俺たち怒鳴
りつけて血圧上がつて、ブツ倒れて死にやがりやいいんだ！

一同、爆笑。好き勝手マルヴォーリオの悪口を言う。

マルヴォーリオが現れる。音楽を止める。

マルヴォーリオ なんの騒ぎだこれは。

トービー おうよくきたなジジイ。一杯飲んでくか？

マルヴォーリオ あなたがたは一体どういうつもりですか。お
嬢様が兄上の死を嘆いて一日中お泣きになつてゐるといふの
に、あなたがたにはわきまえというものが無いのですか。

トービー 十分わきまえてるぜ身分ならな。俺はオリヴィアの
叔父だ。血族だ。伯爵様の弟サマサマだ！ 伯爵様の留守を
任されてるのはこの俺だぞ。貴様のような老いぼれジジイよ
りはるかに偉いんだ、ざまあみろ！

アンドルー そして俺はその伯爵様の弟サマサマの友人サマサ

マサマだ！ お前より、トービーさんよりもはるかに偉いん
だ、ざまあみろ！

マルヴォーリオ トービー殿、わたくしはお嬢様の執事です
ぞ。わたくしの言葉はお嬢様の言葉と思いなさい。

トービー だからどうした。オリヴィアの言葉なんぞ屁でもね
えわ。

マルヴォーリオ もしこれ以上騒ぎ立てるならお嬢様はあなた
がた全員この邸から追放しますからな！ 覚悟しておくんで
すな！

トービー 覚悟するのは貴様の方だ。伯爵様の弟サマサマに無
礼を働いた報いは必ず受けてもらうぞ。

マルヴォーリオ マライア、お前もこれ以上こいつらの騒ぎに
付き合うようなら、タダではすまないとと思え、わかつたな。

マルヴォーリオは去る。

トービーは酒を飲む。アンドルーも飲む。

トービー チツ、あいつのせいで酒がマズくなつちまつた。

アンドルー まつたくだ、サツポロソフトみたいな味がする
よ。

トービー おいマライア、なにかあいつに一泡吹かせてやる方
法はないか。

アンドルー 僕が思うに、人間のままじや一泡吹けないと思う
んだ。だからまずあいつに力二になつてもらわないといけな
いと思うんだ。

マライア そうですね、いい方法がないこともあります。

トービー 本当か？

マライア あの人つて、すごくナルシストじやないです。も
う老いぼれなのに、自分は世界一イケメンで、モテモテだと
思つてゐんですよ。

アンドルー それは早く違うつて教えてあげたほうがいいよ、かわいそだから。

マライア しかもここだけの話、あの人、オリヴィア様に惚れてるんですよ。

アンドルー それは困るよ、これ以上ライバルが増えたら勝ち目がないよ。

マライア そこで、偽のラブレターをあいつの通り道に落としておくんです。私、オリヴィア様とそつくりの字が書けるんです。

トービー なるほど。

アンドルー どういうこと？ わかりやすく説明してくれよ。

マライア そのラブレターでマルヴォーリオに指示を出さんです。オリヴィア様に嫌われるような行動を取るようにな。

アンドルー なるほど！

マライア トービーさんたちは物陰に隠れて、最高のエンター テイメントを楽しんでください。明日の昼過ぎ、ヤツが日課の散歩で中庭を通るときです。

トービー ああわかった。

マライア それじゃあ今日はおやすみなさい。期待しててくださいよ。

マライアは去る。

アンドルー いい女だな、あのマライアって女。

トービー ああ、あいつ俺に惚れてんだぜ。

アンドルー なんだ、僕は惚れられてないみたいで安心し

たよ。僕がオリヴィアちゃんに求婚した時に嫉妬されると後々面倒だからね。

トービー その通りだ。

アンドルー でも大丈夫かなあ。オーシーノ公爵もオリヴィアちゃんに求婚してるらしいじゃないか。僕じやあ勝ち目がないと思うんだ。

トービー アンドルーくん、自信を持つんだ。いいか。オリヴィアは自分よりも上のものに興味がないんだ。身分も知性も面白さも全て自分より下でなきやいかん。

アンドルー そうか、ありがとうトービーさん。自信が湧いてきたよ。

トービー よし、それでいい。さあ、これから俺の部屋で2次会だ。あのジジイの無様な姿が見られるのを祝して乾杯だ！

アンドルー 仕方ないな付き合つてやるよ。

トービーとアンドルー、道化は去る。

第三場 公爵の宮殿

次の日の昼。

公爵が現れる。

公爵 シザーリオ！ シザーリオはいるか？

ヴァイオラとキューリオが現れる。

ヴァイオラ　はい、シザーリオはここに。

公爵　昨日はよくやつた。オリヴィア姫からいい返事はきけなかつたものの、そいつ（キューリオ）よりは手応えがある感じだ。今日もまたオリヴィア姫のところに行つてもらいたいと思う。

ヴァイオラ　はい、わかりました。

公爵　十何回断られたくらいでは俺はあきらめない。必ずオリヴィア姫を俺の妻にしてみせる。俺のオリヴィア姫に対する愛情は宇宙よりも広いんだ。シザーリオよ、お前は恋をしたことがあるか。お前には俺の苦しみがわかつてもらえるだろうか。

ヴァイオラ　ええ、わかります、あなた様のおかげで。

公爵　どんな女だ？

ヴァイオラ　あなた様のようなお顔立ちで。

公爵　そりやあお前にはもつたいない。こんな顔の女よりもつと美しい女を選んだほうがいい。歳は？

ヴァイオラ　ちょうどあなた様くらいの年ごろです。

公爵　そりやあずいぶん年上だ。もつと若いのを選んだほうがいい。年上はダメだ、すぐ尻に敷かれる。年下の女は男に忠誠を誓つてくれるからな。

ヴァイオラ　僕もそう思います。

公爵　さあ、それではオリヴィア姫のところに向かってくれ。

そして俺のオリヴィア姫に対する愛は宇宙よりも広いと伝えてくれ。

ヴァイオラ　もしかたを愛することはできませんと言われた

ら？

公爵　そのような返事はきかん。

ヴァイオラ　きかないわけにはいきません。例えば、公爵がオリヴィア姫を愛するのと同じくらい、どこかの女が公爵のことを愛しているとします。その女が公爵に愛を拒絶されたとしても、そのような返事をきかないわけにはいかないでしょう。

公爵　女の愛などたかだか知れている。俺のオリヴィア姫に対する愛とは比にならん。

ヴァイオラ　そんなことはありません。

公爵　なぜ男であるお前にそんなことが言える？

ヴァイオラ　僕の父には娘がいました。その娘はある男に深い愛を抱いていました。

公爵　それで、その恋はどうなった？

ヴァイオラ　どうにもなつていません。その男はほかの女性を愛しているのです。父の娘は、未だに男に愛を伝えられず、苦しみに耐えております。

公爵　それは気の毒だ。お前が慰めてやつてくれ。

ヴァイオラ　ええ、そうします。

公爵　シザーリオ、俺はときどき思う。お前は俺にすごく忠実だ。そして俺のことを愛してくれている、しもべとしてな。

だから、お前が女であればよかつたと、ときどきそう思うんだ。もしお前が女だつたら結婚してもいいくらいだ。自分を愛してくれる人を愛せるのは幸せなことだからな。……なぜ俺は、自分を愛してくれない女を好きになつてしまつたんだろう。

ヴァイオラ ……僕は、そろそろオリヴィア姫のところに向か

おうと思います。

公爵 ああ、そうだな。頼んだぞシザーリオ。俺は絶対にあき

らめない。絶対にな。

公爵は去る。

キューリオ ……皮肉だね、愛する人の愛の言葉を、ほかの女

性に伝えに行くなんて。

ヴァイオラ そうですね、キュウリオさん。

キューリオ 憐しい。キューリ、オね。キューリオ。

ヴァイオラ 父に似てるんです。

キューリオ 誰が？

ヴァイオラ 公爵。

キューリオ ああ、キミのお父さん？

ヴァイオラ もう死んでしまったんですけど。

キューリオ ああ、そうなんだ。

ヴァイオラ 馬から落ちたんです。父らしくない死に方でした。今まで一度も落ちたことなんかなかったのに。とても、尊敬する人でした。

キューリオ ……そうか。

ヴァイオラ ……私、ここの人間じやないんです。

ヴァイオラ ……？

ヴァイオラ 覚えていますか？ 3週間ほど前に嵐があつたの

を。

キューリオ ああ、あつたあつた。ひどい嵐だつたね。どこか

の船も難破したつてきいたよ。

ヴァイオラ その船に乗っていたんです、私。

キューリオ ……そうだつたんだ。

ヴァイオラ セバスチャンという、私によく似た双子の兄も一緒に乗っていました。たぶん荒波にもまれて死んでしまった

と思います。母は私を産んですぐに死んだみたいで、だから、私ひとりぼっちなんです。みんな死んでしまつて……。

キューリオ ……。

ヴァイオラ 私も、兄と一緒に死んでいれば、最近よくそう思うんです。

キューリオ あのさあ、

ヴァイオラ ……？

キューリオ 僕のこと頼つてもいいから。いや、俺奥さんいりし、恋愛的なあれとかはもちろんダメだけど、相談とか、いつでも乗るし。

ヴァイオラ いえ、大丈夫です。

キューリオ ……そうか。

ヴァイオラ それじゃあ行きましょう、ブロッコリーさん！

キューリオ キューリオね！

ヴァイオラ 行きましょう、キューリオさん！

ヴァイオラとキューリオは去る。

トービーとアンドルーが現れる。

アンドルーが偽のラブレターを道の上に置く。

アンドルー ここでいいかなあ。

トービー ああ、上出来だ。お前もやればできるじゃないか。

アンドルー 成功するかなあ。

トービー もちろん、マライアが周到な計画を練っている。来たぞ。マライアも一緒だ。

二人は物陰に隠れる。

マルヴォーリオ まったくお前たちは朝から手も動かさずに、お喋りばかりしている。

マライア すみませんマルヴォーリオさん、あの、本当に今朝私たちがしていた噂話、内容はきいていなかつたんですね。

マルヴォーリオ まあ、まあそうだなあ。

マライア ならいいんです。マルヴォーリオさんには秘密にしておかないといけないことですから。

マルヴォーリオ だがその、お嬢様のお名前と、私の名前と、惚れているとかどうとかいうことはきこえてきた気がするんだが。

マライア まさか。オリヴィア様がマルヴォーリオさんに惚れてるなんてことはありませんよ。もしそうだとしても、絶対にマルヴォーリオさんに知られちゃいけないんです。なにせ秘密の恋なので……。もしマルヴォーリオさんに盗み聞きさ

れたなんてオリヴィア様に知られたら、私たちオリヴィア様に怒られますからね。

マルヴォーリオ まあ、それはそうだ。

マライア そうだマルヴォーリオさん。お嬢様がラブレターをこのあたりに落としてしまったみたいなのですが、もしこの辺りにラブレターが落ちていたとしても、絶対に拾つたり、封筒を開けたり、中身を見たりしないでください。お願ひしますよ。

マルヴォーリオ ああ、もちろん、そんなお嬢様に失礼なことはせんよ。

マライア それじゃあ、マルヴォーリオさん。私は先に行きますので。

マライアは去る。

マルヴォーリオ ……お嬢様が誰かに惚れている……？ 私か、私なのか？ いや待て。順当に行けばオーシーの公爵か。いやいやお嬢様は何度も公爵の求婚を断つておられる。ということは、あのシザーリオとかいう小僧……？ いやいや、お嬢様があんな小僧に惚れるはずは……、気になる。気になるぞ。誰なんだ。お嬢様が惚れている相手。ぐぬぬ、お嬢様が落としたラブレターが見つけ出せれば、わかるかもしれません。しかし、そんな都合よくラブレターがあつた！

マルヴォーリオはラブレターを拾う。

アンドルー　戻にかかつた！

マルヴォーリオ、周囲を確認しながらラブレターを開封する。中の手紙を開く。

マルヴォーリオ　間違いない。お嬢様の字だ。（すぐ読もうとするが、一度深呼吸して、手紙をたたむ）落ち着け、落ち着くんだ。なにをしているんだマルヴォーリオ。お嬢様のラブレターダぞこれは。私が勝手に見てもいいようなものではない。それに、それにもし私の名前が書いてなかつたらどうするマルヴォーリオ？　ほかの男の名前が書いてあつたらどうするマルヴォーリオ？　読まない方がいいのだこんなものは。

（手紙を封筒にしまい、下の場所に置き、去ろうとする）

トービー　なにをしてるんだ、グダグダ考えずにとつと読みやがれ。

マルヴォーリオ　（去ろうとするが踏みとどまる。前に進もうとするが足が動かない）く、足が、足が動かない。くうう、くううう！　ダメだ、動かない。私の足がラブレターを見ろと叫んでいる。くうう、くううう！　（そのまま後ろ歩きでラブレターのところに戻る）ダメだ、ダメだマルヴォーリオ。く、くそう、手が、手が勝手に、

※無料版はここまでです。ご覧くださいありがとうございました。全編はクラアク芸術堂の販売ページ（左のURL）から購入できます。ありがとうございました。

あとがき

以前から、シェイクスピアをやりたいと思つていたのですが、台本は面白いはずなのになぜか上演されているものを観るといまひとつ面白くない……、ということばかりでした。それはやつぱり、シェイクスピアの台本に忠実にやろうと、日本人が頑張つて外国文化の外国人を演じていること、「シェイクスピアは高尚なものだ」という思い込み、そして日本人にはピンと来ないコジヤレた言い回しが原因だと思うのです。

でも当時の人は、シェイクスピアを笑つたりハラハラできるエンターテイメントとして観ていたはずなので、当時の人々が観ていたように、現代の日本人も笑つたりハラハラしたりしてシェイクスピアを観ることができるはずだ、という思いから、台詞は全て書き換え、現代の日本人が観てもすんなり理解できるようにしました。

書いてみると、シェイクスピアの劇曲は本当にコントみたいなもので、ひたすら登場人物が勘違いしていって噛み合わない、という単純にして強力な作りになっています。そしてそれがわかると、シェイクスピアの戯曲に書かれているそれ以上のもの、生きることの悲しさとかおかしさなんていうものも味わうことができるようになります。

この作品によつて、シェイクスピアへの抵抗感がなくなれば、幸いです。

『上演記録』

劇団アトリエ第13回公演 名作劇場4『再編・十二夜』

【日程】

2014年6月28日（土）14時／18時

【キャスト】

ヴァイオラ ━━ 原彩弓（おかめの三角フラスコ）

オーシー・ノ公爵 ━━ 小山佳祐（劇団アトリエ）

キューリオ ━━ 能登英輔（yhs）

オリヴィア ━━ 飛世早哉香

マルヴォーリオ ━━ 城島イケル（劇団にれ）

マライア ━━ 柴田知佳（劇団アトリエ）

トービー ━━ 伊達昌俊（劇団アトリエ）

アンドルー ━━ 遠藤洋平

道化 ━━ 有田哲（劇団アトリエ）

セバスチャン ━━ 上松遼平

アントニオ ━━ 西村翔太（劇団千年王國）

【場所】

サンピアザ劇場

【料金】

一般前売1700円（当日1900円）

25歳以下前売1200円（当日1400円）

高校生以下前売500円（当日700円）

※実際の上演内容と一部異なる場合があります。ご了承ください。

【スタッフ】

作・演出 小佐部明広

照明 岩ヲ脩一（Region Xross Inc）

音響 小佐部明広

衣装 佐々木青

メイク chitoo. 阿部文香（北星学園大学演劇サークル）

小道具 阿部文香（北星学園大学演劇サークル）

宣伝美術 小佐部明広

『再編・十二夜』の上演について

「一般前売入場料2000円未満」または「公演予算100万円以下」の場合は、脚本使用料は無料です。それ以外の場合は、協議の上、総予算の3%程度を脚本使用料とします。上演のお問い合わせはクラアク芸術堂企画運営委員会まで。

【クラアク芸術堂企画運営委員会】

clark.artcompany@gmail.com